

V 水 質 環 境

1. 調 査 方 法

各地点、各深度ごとに、底層近くの水質について、次の項目を測定した。

イ、水温、EIL社15A型DOメーターを使用、(1部水銀温度計を使用、附表7 ※印)
ロ、PH、比色管法(BTB、PR、及びTB)による。

ハ、DO、EIL社15A型DOメーターを使用、(1部ウィンクラー法による。附表7 ※印)

2. 結 果 及 び 考 察

本項目は、生物調査に附帯するものとして実施したもので、分析項目も少ないため水質の状態について詳細に記することは困難である。しかも調査期間が約2ヶ月という長期に亘っており、日照や気温等の天候の変化に伴ない、水質そのものも調査の初期と終期ではかなりの変動があったと推定され、各地域別の水質の状況を判別することは不可能である。ここでは若干の考察を加えるにとどめる。

(1) 水 温

7月初期において、浅部と深部の水温差は極めて小さく、20℃前後である。しかし以後の時期では、深部ほど低水温である。(38～40地点では水温差はほとんどない)調査期間を通じての最高水温は、28地点の1深度において30.1℃(8月12日)であり、最低は、22地点2深度の18.7℃(7月9日)である。浅部と深部の水温差の最も著しかったのは44地点で6.9℃(7月19日)であった。

(2) P H

pHの範囲は6.4～8.4である。天候が悪く、水温の低かった初期においてはこの値が低く、晴天で高水温の時ほど、高い値を示している。これは、水藻の影響が大きいと考えられる。

(3) D O (％)

最もDOの低かったのは15地点1深度で、25.6％である。この時のPHは6.6とかなり低い値である。これは水藻の影響ばかりでなく、流入陸水の影響もあるものと思われる。32地点の深度4及び5においても低い値であるが、その原因は明かでない。

全体的に見て、水温が高く(晴天が多く)水藻が密棲している地域ではDOが高い値を示している。又この調査地点の範囲においては、無酸素に近いような地域は見られなかった。